特集

台北「昭和町」のご紹介

編集部　田村　圭介

台北の昭和町をご存知ですか？

みなさま、台北の「昭和町」をご存知でしょうか。今回ご紹介する「昭和町」は、現在の台北市大安区の青田街及び永康街、温州街、和平東路の一部にあたります。この地域は、日本統治時代の昭和初期までは台北近郊の農村地帯で、1928年（昭和3年）台北帝国大学の設立の後、住宅の建設に伴い市街地が形成されていきました。そして、今でも日本家屋が点在し、昔の面影が残っています。今回は、そんな台北の「昭和町」に点在する日本家屋と、そこに残る記憶を訪ねてきました。

【青田茶館・敦煌畫廊】《マップ内❶》

100坪の庭に、130坪以上の建物。その半分を占める「敦煌畫廊」。画廊オーナーの頼志明さんが、気品漂うお茶を淹れてくださいました。お嬢さんが京都に留学されており、日本と台湾の文化の融合や台湾美術史について笑顔で話されました。

2年間空家で廃屋同然、骨格がかろうじて残り、玄関や廊下、一部窓なども現存していた家屋を頼志明さんが修繕。樹齢100年以上のマンゴーは1年中実をつけては熟して下に落ちるそうです。

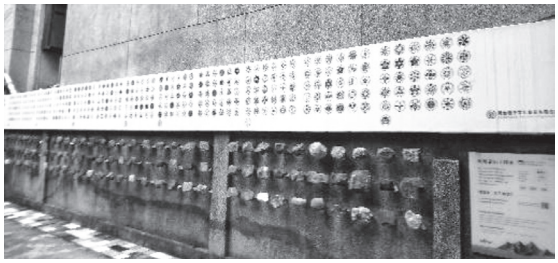
【青田茶館・敦煌畫廊】
台北市大安區青田街8巷12号
(02) 2396-7030
月曜休館　営業時間13:00～18:00

【和合青田】《マップ内❹》

1930年建築の瓦葺き日本家屋。日本人の旧居宅を新生・再生・共生の理念で2年余りの時間をかけて昨年7月に創立。「リノベーション事業継承」と「未来の発展」に道を開く使命を持って雲南秘境の古茶を置き、ティーセレモニーやセミナーも開催されています。『「和合」を経営理念として、東洋も西洋も庶民まで「ありがとう」の気持ちで楽しめる茶の精神を伝えていく』と中文ホームページに記載されています。

【和合青田】
台北市大安區青田街8巷10號
青田茶館のお隣
(02) 2321-0055

【青田七六】《マップ内❺》



青田街七巷六号は日本統治時代の1931年、日本から台湾へ渡った教授たちが組織した「大学住宅組合」によって建てられた家屋の一つ。家主は台北帝国大学理農学部で応用微生物学の教鞭をとった足立仁教授でした。1945年、敗戦により、大学が接収され、家主は台湾大学教授の馬廷英教授に替わり、以後2007年まで馬家が家主。青田七六は2006年5月2日、台北市政府により正式に台北市古跡と定められ、その名称を「国立台湾大学日本式宿舎・馬廷英教授邸宅」とされています。当時のお子さんはお正月には年賀状ならぬ手書きのネームカードをポストに届けたり、とにかく仲良く交流されたことが湾生の方々はよき思い出として残っておられるそうです。

【青田七六】
台北市大安區青田街7巷6號
ガイド予約　(02) 8978-7499、
カフェレストラン　(02) 2391-6676
ガイド：月～金9:00～11:00 (要予約)、
カフェレストラン：11:30～21:00
毎月第一月曜、旧正月はお休み

【聲音光年】《マップ内❽》
門構えにいきなり大きな蓄音機が飾られており、エジソン蓄音機、78回転SPレコードや33回転LPもあり、大正ロマンの香り漂う建物。レコード鑑賞会も可能だそうです。5日以上前の予約が必要。

今年の6月のイベントでは、昭和の建築物で、昭和歌謡を鑑賞、また台湾の演歌との繋がりについて講師を招き、日台両方の名盤を聞かせてくれました。

【聲音光年】
台北市大安區和平東路一段187號
(02) 2395-7838
土日休館
平日のみ営業10:00～17:00

◆◆◆

今回の取材にあたり、中央研究院（台湾最高学術機関）民族学研究所の黄智慧先生から多大なご協力をいただきました。黄先生は文化人類学、日本研究、沖縄研究がご専門で、文化財審議委員。黄先生はあえてこの地域に居宅を構え、2003年より市民として昭和町保存運動を起こされました。この地域は建築だけではなく戦前台湾に貢献していた学者たちの歴史を多く残しており、行政や企業を含め文化財保護活動の渦を広めていければ、とおっしゃっていました。

黄先生のお持ちいただいた資料に浅香正美さんの書かれた「紫藤廬と私」という文献がありました。その中には1946年初

「台北昭和町会」について

「湾生」は戦後に日本に引き揚げたものの生まれ育った台湾を想い、「台北昭和町会」を結成し毎年6月に東京にて14回集ってきた。会員の高齢化により一旦2017年にピリオドが打たれたものの、「湾生」の精神を受け継ぎ2018年6月9日台北青田茶館で「昭和町の日」イベントが行われた。

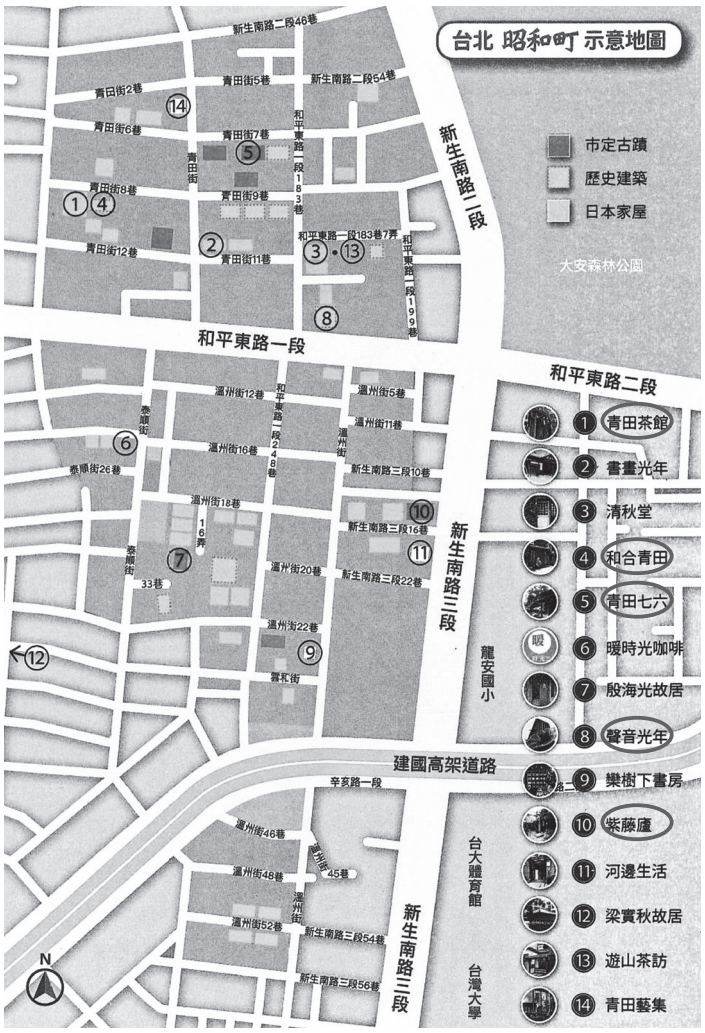
日本統治時代、台北の旧昭和町に住んでいた台湾生まれ、台湾育ちの日本人「湾生」とその家族十数人も参加し、大いに盛り上がった。

イベント開幕の記者会見では湾生を代表し坂本英子さんが「「ふるさと」の大合唱で幼馴染や同級生に想いを馳せ、思わず涙が出ました。台湾の人は皆とても温かい。台湾の人たちに対して嫌な思いは全くない。ありがたい気持ちだけです」と語った。台北では初めて行われた「昭和町の日」。旧住民と新住民の交流だけでなく、さまざまな特別展示や講演会などが行われた。幅広い層の市民参加型で来年も継続開催の予定。

頭、台北師範学長と称する中国人紳士が突然来宅、「この家は貴方たちが日本に帰ったら私が住む」と威圧的、無表情な一方的申し入れがあり、4月には総督府の焼け跡の収容所にリュック一つで立ち去った日の事が走馬灯のように蘇った。と記述されています。洋風建築と日本庭園を取り入れ、愛されたその家屋が「戦後60年消息を絶っていた我が子に巡り合った。それが紫藤廬を見た時の私の気持ちであった。」と記述。旧浅香邸が台北市の古蹟に指定され、茶芸館「紫藤廬」として存在し、台湾文化の一端を担っていることに安堵感を覚えたとのことです。

黄先生によれば、昭和町の日本家屋は台湾の国有財産となっており、戦後接収の経緯で台湾大学や台北市政府に地上建築物の管理権があるそうです。つまり接収者は土地を処分する権利はないものの、地上建築物が民間に売却されるケースもあります。老朽化・荒廃の進む日本家屋も数多く、文化財保護の観点がおざなりにされるとすれば惜しいですね。先人の思いとともに昭和町の日本家屋が伝えてくれている物言わぬメッセージを感じてみませんか。

《昭和町マップ》



【紫藤廬】

《マップ内⑩》

1997年に台北市定古蹟に指定された茶館です。

【紫藤廬】
台北市新生南路三段16巷1號
(02) 2363-9459
無休 (旧正月数日間は休み)
営業時間：10:00～22:00
(食事時間は11:30～14:00、17:30～20:00)
古跡見学10:00～17:00